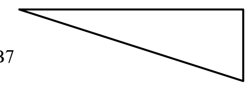
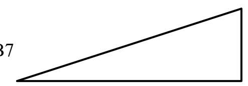
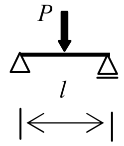
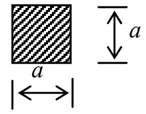
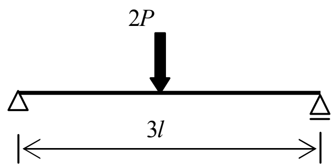
『土木職　総まとめ講座　構造力学』(KU16252)　訂正表

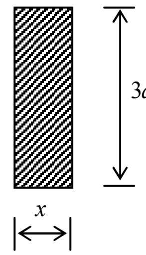
2018年4月18日現在

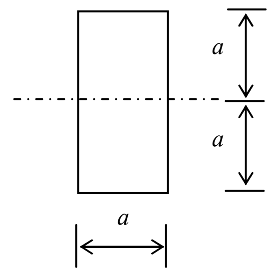
ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 62	[例題２１] 解答３，７行目 の数式	[解答２１] 曲げモーメントの最大は，明らかに中央で起こる。そして，その曲げモーメントの最大値は次のように求められる（分布荷重は集中荷重に直して計算するとよい）。 $M=\frac{Pl}{2}+\boxed{\frac{2wl^2}{2}}$ ここで，最大曲げ応力は， $\sigma=\frac{M}{W}$ で与えられ，$W=\frac{bh^2}{6}$ となるので， $\sigma=\frac{3(Pl+\boxed{2wl^2})}{bh^2}$ 正　解　$\underline{\sigma=\frac{3(Pl+\boxed{2wl^2})}{bh^2}}$	[解答２１] 曲げモーメントの最大は，明らかに中央で起こる。そして，その曲げモーメントの最大値は次のように求められる（分布荷重は集中荷重に直して計算するとよい）。 $M=\frac{Pl}{2}+\boxed{\frac{wl^2}{2}}$ ここで，最大曲げ応力は， $\sigma=\frac{M}{W}$ で与えられ，$W=\frac{bh^2}{6}$ となるので， $\sigma=\frac{3\left(Pl+\boxed{wl^2}\right)}{bh^2}$ 正　解　$\underline{\sigma=\frac{3\left(Pl+\boxed{wl^2}\right)}{bh^2}}$	2018/4/18
P. 85	④　数式と参照図	$\theta_7=\frac{1}{EI}\int M_4\overline{M}_{B7}dx=\underline{-\frac{Ml}{6EI}}$ 	$\theta_7=\frac{1}{EI}\int M_4\overline{M}_{B7}dx=\underline{\frac{Ml}{6EI}}$ 	2018/4/18
P. 91	[例題２] 解答４行目	また，$I_a=\underline{\frac{x^4}{36}}>I_b=\frac{y^4}{12}=\frac{x^4}{64}>I_c=\frac{\pi d^4}{64}=\frac{3}{64\pi}x^4$ なので，	また，$I_a=\underline{\frac{\sqrt{3}}{96}}x^4>I_b=\frac{y^4}{12}=\frac{x^4}{64}>I_c=\frac{\pi d^4}{64}=\frac{3}{64\pi}x^4$ なので，	2016/12/28

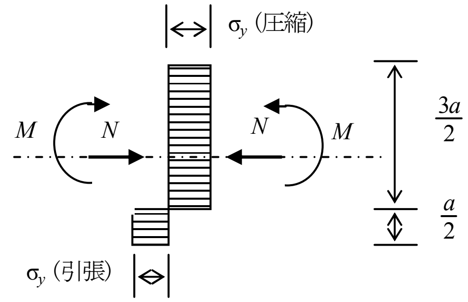
<table>
<tr>
<td>P. 99</td>
<td>［例題１１］
問題文全文</td>
<td>［例題１１］　下図のように，長方形断面をもつ単純梁Ａ，Ｂの中央にそれぞれ集中荷重P，$2P$を作用させた場合の荷重位置における弾性たわみをδ_A，δ_Bとおく。$\delta_A=\delta_B$となるとき，Ｂの梁幅xを求めよ。
ただし，単純梁Ａ及びＢの材質は同一とし，自重及びせん断による影響は考えないものとする。


A


Ａの断面


B


Ｂの断面</td>
<td>［例題１１］　図Ⅰのような長方形断面をもつ等質な部材がある。いま，この部材の断面における垂直応力度分布が，断面の図心に作用する軸圧縮力Nと曲げモーメントMにより，図Ⅱのような全塑性状態にあるとき，Mを表したものとして最も妥当なのはどれか。
ただし，この部材の降伏応力度をσ_yとする。


図Ⅰ


図Ⅱ
（国家Ⅱ種・建築職　2007 年 No.18）
1　$a^3\sigma_y$
2　$\frac{3a^3\sigma_y}{4}$
3　$\frac{5a^3\sigma_y}{8}$
4　$\frac{a^3\sigma_y}{2}$
5　$\frac{3a^3\sigma_y}{8}$
※　教材の制作過程における問題の配置ミスとなります。誠に申し訳ございません。</td>
<td>2018/4/18</td>
</tr>
</table>

※「掲載日」は，上掲訂正情報がＬＥＣホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitei)に掲載された日付です。